

聴く力を育む読譜指導

—ハンガリーの音楽教育における移動ド唱法を用いて—

日本の義務教育では、系統的な読譜指導が行なわれていないために、小学生から大学生・一般まで、楽譜が読めないという現状があります。その原因に教育現場における固定ド唱法と移動ド唱法の論争がまだ解決を見ていないことや、専門教育はほとんどが固定ド唱法で行なわれているため、義務教育の音楽教育で移動ド唱法による読譜指導ができないという問題があげられましょう。

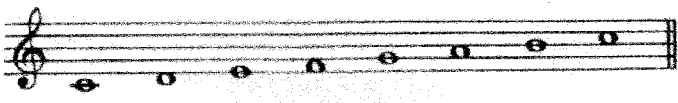
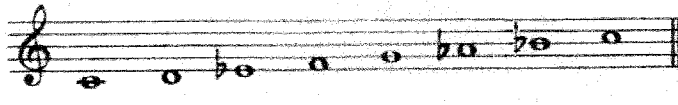
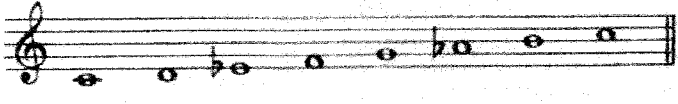
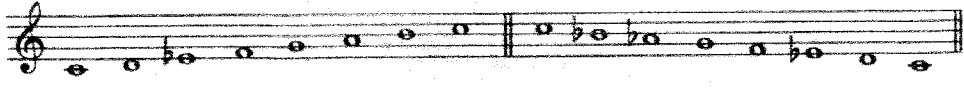

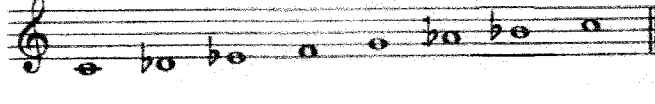
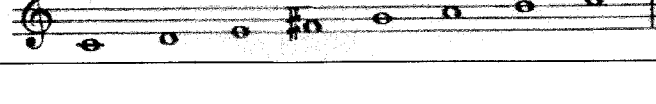
音楽文化は、五線譜など記号による伝承と口頭伝承の2つで伝えられています。私は、民族音楽など口頭伝承で伝えられている音楽文化を五線譜におきかえて教えることはよくないと思っていますが、現状では、ちょうどその逆が行なわれていることは、奇妙でもあります。現在使われている中学校の音楽の教科書の日本の楽器の説明には、五線譜が添えられ、西洋のハーモニーによる合唱が、読譜を行わずにキーボードなどによる耳コピーで教えられています。

本発表は、読譜に関する学術的な研究発表ではなく、日本の音楽教育で、もっと読譜指導を行なって、子ども達の音楽の喜びを自立

した深いものにしましょうという願いの元に、ワークショップを取り入れて発表します。

図1は、ハ音による音階と旋法の一覧です。仙台にある本学では、学生の100%が、このすべてをドレミファソラシドと歌います。図2は、やはりハ音による4種の三和音の一覧です。学生の100%が、ドミソと読みます。

図1 ハ音から始まる音階と旋法

長音階	
短音階 (自然的短音階)	
短音階 (和声的短音階)	
短音階 (旋律的短音階)	
ドリア旋法	
フリギア旋法	
リディア旋法	

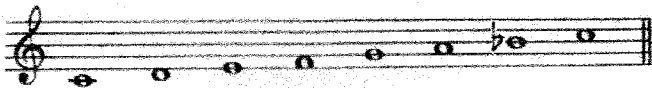
ミクソリディア旋法	
-----------	--

図2 ハ音を根音とした4種の三和音



絶対音高の名前である音名と機能的な音高の名前である階名が区別されずに用いられていること、このように全く異なった音高に、全て同じ名称をつけて歌うという日本式「固定ド唱法」による音高認識では、楽譜から音の機能や音楽を理解することはできません。特に一般教育で、子ども達にそれぞれの違いを理解させることはできないでしょう。

ハンガリーでは、読譜教育は、移動ド唱法から始めますが、絶対的な音高認識と移動ド唱法による音の機能認識を統一的に扱って、聴くことを基盤にし、歌うことを通した音楽の読み書きが、音楽教育の最も重要な目的となっています。また、小学校から大学まで、一般教育、専門教育の別を問わず、指導理念や指導法は、一貫しています。

ハンガリーで用いられている子供達のための読譜教育のツールを
ご紹介いたします。

図3 リズム譜とハンドサイン

ハンドサインは、手による階名唱、文字譜は、文字による階名、
リズム譜とリズム唱は、声によるリズム理解を可能にします。

最初にコダーイ作曲「333 読み方練習」の1番をご一緒に歌いまし
ょう。「333 読み方練習」は、サブタイトルとして、ハンガリー民謡

また、1小節遅れのカノンで歌ってみましょう。また、5度並行の二声にして歌って見ましょう。ドミソの三和音にして、バルトークの和音進行のようにして歌ってみます。

このように教材を読譜する中で、形式感、多声性、創造性をのばしていきます。教材は、単旋律の教材であっても、単声で歌うだけでなく、教師の創意によって様々に活用して、最初の段階から聴く力、とりわけ多声性を育成していきます。

次に、コダーイのピアノの導入教材、「24の黒鍵のカノン」を教材にして読譜練習をやってみましょう。本来は、嬰へ長調、全部黒鍵でピアノを弾くように作曲されています。全部黒鍵ですから、子どもは、鍵盤を捜す必要がありません。ピアノと階名唱でカノンをするのです。このピアノの教材は、読譜の教育にも有効な教材です。階名とピアノ、音名とピアノ、更には、調号を変えるなど、様々に活用できます。

楽譜 2 コダーイ「24の黒鍵のカノン」より1番

1.

s m s n r d m l s m l s s m s m d m

♩ 8va bassa

d l d m l s m s d m s m r d

まず、1番を教材にしてやってみましょう。私の歌うメロディー聴き、1小節遅れで追いかけて歌ってください。次に、やはり同じように私の歌に1小節遅れで、追いかけますが、心の中で内唱して、ハンドサインで追いかけてください。では、ハンドサインと階名で歌いましょう。メロディーを覚えましたか？難しい課題ですが、聴く力を大きく育てる一人カノンをしてみましょう。口で階名を歌い、ハンドサインで追いかける一人カノンです。更に、音名と階名でカノンしたり、歌とピアノをカノンしたり、調をいろいろ変えたり、この教材は、多様に活用して、読譜の中で聴く力を育てます。

カノンの様式は、対位法の基礎で、ルネサンスやバロックの対位法様式へと後に小学校3年生から発展させられます。

それでは、ハンガリーの小学校2年・3年・5年・6年・7年の音楽の授業の一部をビデオでみていただきます。

2年生では、民謡の遊びから短二度と長二度の認識、更には、長短

三度を歌い聞く中で理解し、1曲の中に長調と短調が共存している民謡を使って、長調と短調の違いを理解し、歌います。

まず始めに、5人の子どもにピアノの鍵盤になってもらい、短二度と長二度を人間ピアノによって歌い、音程の聴音をします。絶対音高の聴音ではなく、長、短二度の聴感を育てているのです。

楽譜3 ハンガリー民謡「シナヨム」

mi
Szi - na - jom, szi - na - jom, szé - na sza - ka - dé - kom,
Ben-ne fo - rog ko - má m - asszony, meg egy sza - kács - asz - szony.
szó
Ad - jon Is - ten jó nagy e - sőt,
Mos - sa ősz - sze mind a ket - tőt.
Hej, li - pi lip - paj - dom.

3年生では、古い民謡のスタイルによるハンガリー民謡を教材に、民謡のスタイルの学習をし、その後、ワークショップで歌いましたが、民謡を使って、5度のチェンジから、5度並行で歌い、さらに、カノンと五度並行をいかした、コダーイの二声合唱曲集「ビチニア・

「フンガリカ」に載っているこの作品を歌います。

5年生です。

西洋音楽史の学習に入ります。グレゴリオ聖歌です。グレゴリオ聖歌には、3つの様式、メリスマ、シラビック、レチタティーヴォ様式があります。既習のメリスマとシラビック様式の復習をした後、新しいレチタティーヴォ様式の学習をします。先生の歌を聴き、覚え、楽譜に書きます。いわゆる聴音ですね。次にこれらの3つの様式を使った即興を試みさせます。

このような多様な音楽活動を経て、コダーイの混声合唱曲「老人達」の鑑賞へと導くのです。この合唱曲は、グレゴリオ聖歌のレチタティーヴォ様式で作曲されています。多様な音楽活動をした後に行なわれる鑑賞では、子ども達の聴く力の深さには目を見張るものがあります。

次に6年生の授業です。音楽史のバロック様式へと進みます。教材を少しだけ、体験していただきます。コダーイの「15の二声練習曲集」から、ヴィヴァルディのテーマによる練習曲です。まず、先ほどのリズム唱で叩いてみましょう。では、ソプラノとアルトに分

かれて、それぞれのパートをリズム唱をしながら、相手のパートのリズムをたたいて見ましょう。両声部が聞こえましたか？

楽譜4 コダーイの「15の二声練習曲集」より12番

12. *(Antico Vivaldi binjára)*

The image shows a musical score for exercise 12. It consists of two staves of music. The top staff is in treble clef and the bottom staff is in bass clef. The music is written in a rhythmic style, with many eighth and sixteenth notes. The score is divided into four measures. The first measure starts with a treble clef and a common time signature. The second measure starts with a bass clef and a common time signature. The third measure starts with a treble clef and a common time signature. The fourth measure starts with a bass clef and a common time signature. The music is a rhythmic exercise, likely for vocal or instrumental practice.

コダーイは、ヴィヴァルディのテーマを使ってこの二声の練習曲を作曲しました。1年生から体験している、5度チェンジや5度カノンで作られていますので、子ども達は、容易くアナリーゼすることができます。ビデオでは、調性が変わるごとに、階名唱をその調に変えて歌っていきます。ハンガリーの移動ド唱法は、楽典、楽曲理解、アナリーゼを基盤とし、絶えず聴く力を育てながら歌うことに

よって行なわれているのです。

最後に7年生を見ていただきます。

音楽史の古典派に進みます。古典派の音楽にとって骨格となる基本的なTSDの機能和声をコダーイの「ナジサロンタ地方の祝歌」を例に、具体的に歌って学びます。次に応用として、モーツァルトの「魔笛」から「魔法の鈴」を、即興的にTSDを入れて歌っています。

アルトの子ども達に教師がI、IV、Vと指で示すと、子ども達は、T（トニカ）、S（サブドミナント）、D（ドミナント）と歌って、上声二声を支えます。このようにしてハーモニー感が育成されます。

ワークショップとハンガリーの授業のビデオの一部をご覧ながら、ハンガリーの読譜教育について発表しました。ハンガリーの読譜教育は、形式、様式、調性を分析的に学びながら絶えず、二声、やがては多声を聴き歌うことがお分かりのことと思います。

このようなハンガリーの読譜教育は、ハンガリーの作曲家・音楽学者・教育家であるコダーイ・ゾルターン（1882-1967）の理念によっています。コダーイの理念は、以下のように要約されます。

1. 音楽は万人のもの
2. 歌唱の重視
3. ハンガリー民謡の重視
4. 一般学校教育におけるソルフェージュ教育の重視

次に、ハンガリーの音楽の教科書から、ハンガリーの読譜教育を見て行きましょう。

図4 サボー・ヘルガによるハンガリーの音楽の教科書より1年生

The image shows a page from a Hungarian music textbook for first grade, divided into two pages (22 and 23). The page contains several musical exercises and illustrations:

- Top left:** A small illustration of a bird. Below it, a musical staff with a treble clef and a single note on the line (mi). The word "szó" is written above the staff, and "mi" is written below it. A hand is shown pointing to the note.
- Top right:** A musical staff with a treble clef and a melody of notes. Below it, a snail illustration. The lyrics "Csi - ga bi - ga told ki szar - va - dat" are written below the staff.
- Middle left:** A musical staff with a treble clef and a melody of notes. Below it, a snail illustration. The lyrics "Ko-szo - rú, ko-szo - rú, Zsipp, zsipp, ken-der-zsipp." are written below the staff.
- Middle right:** A musical staff with a treble clef and a melody of notes. Below it, a snail illustration. The lyrics "Gyer-tek ha - za, fu - da - im!" are written below the staff.
- Bottom left:** A musical staff with a treble clef and a melody of notes. Below it, a snail illustration. The lyrics "Gyer-tek ha - za, fu - da - im!" are written below the staff.
- Bottom right:** A musical staff with a treble clef and a melody of notes. Below it, a snail illustration. The lyrics "Nem me - rünk!" are written below the staff.

At the bottom of the page, there are two page numbers: "Munkafüzet 9. oldal" and "22" on the left, and "Munkafüzet 9. oldal" and "23" on the right.

これは、サボー・ヘルガによる教科書 1 年生です。ハンガリーの音楽伝統の最初の 2 音、ソミから読譜教育が始まります。ソミ、短三度は、五線のあらゆる場所に存在すること、移動ドでのソミを示し、歌います。

図 5 サボー・ヘルガによるハンガリーの音楽の教科書より 2 年生

Párvásztó játék

szó
Kis kor-tom te - le van
zsá - lyá - val, zsá - lyá - val,
lo - vas ka - to - ná - já - val,
én né - zem, én lá - tom,
én kö - zü - lők ki - vá - lasz - tom
az én ked - ves pá - ro - mat.
"Li - di - ké - nek nem ju - tott, nem ju - tott,
a - zért meg - ha - ra - gu - dozt,
de majd más - kor jut - ta - tik, jut - ta - tik,
ak - kor nem ha - ra - gu - dik.

* névbehelyettesítéssel is énekelhetitek
zsálya = disz- és gyógynövény
juttatik = jut (régiesen)

Katonatoborzóskor a búcsú perceit úgy tették vidámabbá, hogy a legények
s a tőlük búcsúzóló leányok párvásztó körtáncot jártak.

Munkafüzet 6. oldal
D C H A H G G

Páros vonuló játék

szó
Zöld pa - ra - di - csom, li - li - om, li - li - om,
Meg - csalt a szí - vem, jól tu - dom, jól tu - dom,
Egy é - le - tem, egy ha - lá - lom,
Már én - né - kem el kell vál - nom,
É - de - sem, ked - ve - sem.

(A játék leírása a 135. oldalon)

Szarkatánc

szó
Hej, pi - pir - ke, pi - pir - ke, ez a szar - ka tán - ca,
Cse - pü - le - pü ken - der - fü, ez a for - du - lá - sa.

csepü = a kender törmelékének neve
csepü-lepü = játékos szóhasználat


(A játék leírása a 136. oldalon)

2 年生では、このように、移動ドと絶対音高の統一を図っています。

次にお見せするのは、コダーイがアーダム・イエーネーと編纂した歴史的な音楽の教科書です。

図6 コダーイがアーダム・イエーネーと編纂した音楽の教科書

1.



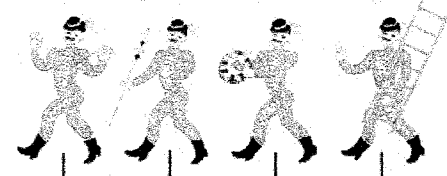
csip, csip csó-ka, vak var-júcs-ka

| | | | | | | |

tá tá tá tá tá tá tá tá

Setélva mosdognak!


Zibor-zábor, ki van a városban?
Gazda legény, Mit hoz, mit hoz?
Gyöngyöt, gyöngyöt asszonyának,
Arany pálcát a fiúnak,
Gyöngykoszorút a lányának,
Hosszú létrát az apjának.



zi- bor - zá- bor.

| | | |

2.



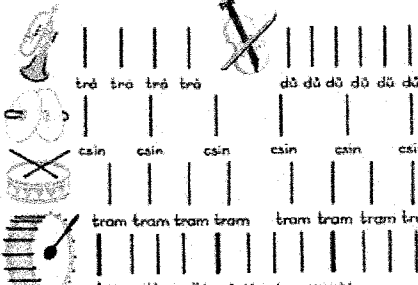
Er-dő mel-lett nem jó lak-ni,

| | | | | | | |

Mert sok fát kell ha-so-gat-ni.

| | | | | | | |

Tapsoljunk, kopogjunk, doboljunk, csapogassunk amyszor, ahány
vonalkát látnak! Olvassatva egy-egy vonal azev: lá.



tró tró tró tró dő dő dő dő dő dő

| | | | | | | |

csin csin csin csin csin csin

| | | | | | | |

tram tram tram tram tram tram tram tram

| | | | | | | |

A vastagabb vonalkát erősebben hangostassuk!

4年生までは、基本的にわらべうたと民謡が主教材になっています。やはり、ソミやターティティといった民謡に含まれる要素から徹底して、歌い、楽譜の読み書きを学びます。

先ほどお示ししたサボー・ヘルガの教科書も、民謡が主教材になっていることに変わりはありません。

西洋音楽を理解し、その楽しさを自分のものとするためには、音楽を単なるイメージといった感性で捉えることなく、楽譜を読み、音楽の要素の構造的な理解が前提となりましょう。読譜は、決して音楽の時間をつまらなくする内容ではないことが、ビデオからき

とおわかりになったことと思います。ピアノなどのお稽古に通えないごく普通の子ども達が音楽室にいます。そういう子ども達にこそ音楽で生涯にわたって楽しむことのできる音楽教育をしていくことが大切ではないでしょうか？

日本における読譜教育が少しでも進むことを願っています。